

Vol.4 _ 2021.8

フューチャー株式会社
(東証一部:証券コード 4722)

フューチャーグループによるウェビナー FUTURE INSIGHT SEMINAR ESG、SDGsと新たな金融の役割

フューチャーグループは、IT コンサルティング事業を主軸とするフューチャーアーキテクト株式会社を中心に、テクノロジーをはじめ金融、流通、物流、サービスなど様々な分野のエキスパートがお客様の IT 戦略パートナーとして提案から開発までを一貫してサポートしています。本ニュースレターでは、「ESG、SDGsと新たな金融の役割」をテーマに開催したウェビナー「FUTURE INSIGHT SEMINAR」についてご紹介します。



FUTURE INSIGHT SEMINAR

ESG、SDGsと新たな金融の役割

2021年7月6日(火) 17:00~18:30 ONLINE

		
ニッセイアセットマネジメント 株式会社 代表取締役社長 大関 洋	Japan Digital Design 株式会社 代表取締役CEO 河合 祐子	フューチャー株式会社取締役 兼 フューチャー経済・金融研究所 所長 山岡 浩巳

◆ ESG、SDGsを起点にビジネスモデルを変革していく競争の時代

ニッセイアセットマネジメントは、ESG のフロントランナーとして様々な施策を行っております。時代の転換点にある現在のメガトレンドは、カーボンニュートラルとデジタルトランスフォーメーションです。これまでの投資のフレームワークは「リスク」「リターン」が基軸ですが、ESG の観点ではこの2軸に加え「インパクト」の指標が加わります。しかし、ESG には統一の評価基準がなく、バックテストの基準もないため何をもって評価が高いのか、統計的にも確立されていません。また投資すべき対象は、現在 ESG へ積極的に取り組む企業なのか、それとも、現在は ESG への取組みが消極的な企業だけれども目標が達成されれば社会的インパクトが大きくなる方なのかといった、投資家としても難しい判断が求められます。今後は各社が ESG、SDGsを起点にどのようにビジネスモデルを変革していくかという競争になるでしょう。日本はカーボンニュートラルに向けた要素技術をたくさん持っていますが、課題はこの要素技術をいかにくみ上げ、統一し、最終消費者に届けるかという点です。ただし、変革はチャンスでもあります。将来、日本のなかから ESG・SDGs で何十倍の時価総額になったという企業が出てくるところをぜひ見てみたいですね。



大関 洋

ニッセイアセットマネジメント株式会社 代表取締役社長

1987年東京大学理学部卒。2008年ペンシルバニア大学ウォートン校上級マネジメントプログラム(AMP)修了。1987年日本生命保険相互会社入社。2014年取締役執行役員(有価証券統括)、2018年常務執行役員(米州・欧州ビジネス総責任者)などを歴任。2020年より現職。

◆ 日本の公害問題を克服してきた歴史に潜む多くのヒント

私が所属する Japan Digital Design は、金融における情報技術の利用にフォーカスした会社であり、データの蓄積と分析が肝になる ESG は、事業領域となり得ると考えています。私は昨年秋まで欧州にいましたが、「ESG」よりも「サステナブル」という言葉を聞くことが多く、関連する金融は「サステナブル・ファイナンス」と呼ばれていました。特に気候変動が関心の中心で、パリ協定の盛り上がりから、さらにコロナ禍を経て、グリーン・フォーカスを景気回復の柱とするに至っています。こうした取組みの中で、持続可能性を金融で支え、国際比較を実現するためには、そもそもどういうデータを活用するのか、またどのようにデータの正確性を担保するのかという課題があります。現在、グローバル、ローカルあわせて数多くの開示基準があり、その統一は実現していません。ESG、SDGs は誰もが前向きな気持ちで推進できるテーマであり、私は**日本が公害問題を克服してきた歴史にもたくさんのヒントがある**と思っています。人間のことだけではなく生物多様性を大事にし、地球全体にとって何が最良かということを GDP ではない成長評価軸で考える時期に来ているのかもかもしれません。ここに、**科学技術や金融が貢献できることは数多くある**と確信しています。



河合 祐子

Japan Digital Design株式会社 代表取締役CEO

京都大学法学部卒。ペンシルバニア大学ウォートン校MBAファイナンス専攻。米系金融機関、独立系シンクタンクを経て2003年日本銀行入行。為替課長、FinTechセンター長、欧州統括役などを歴任。2020年11月Japan Digital Design株式会社入社。2021年3月より現職。

◆ 金融機関もテクノロジーの進化とともにイノベーションを起こしながら発展的に変革を

ESG、SDGs は、**産業構造やパワーバランスを大きく変える「経済・産業の Game Changer」**として世界の主要アジェンダとなっています。消費行動やサプライチェーンでも脱炭素化が考慮され、企業経営も ESG、SDGs コンプライアンス抜きでは難しくなります。ESG、SDGs における金融の役割を考えると、地球の持続可能性を市場メカニズムによって実現しなければならないという壮大なテーマにぶつかります。従来の「リスク」「リターン」の枠組みを超える判断が必要となり、企業にとっては情報開示が一段と重要になります。このような情報をもとに企業の持続可能性への貢献が金融市場で評価され、適切な資源配分が実現されていくという好循環の形成が求められます。市場メカニズムを通じた持続可能性への貢献という観点から、グリーンと金融は密接に関連しています。自身が委員長を務めた東京都の検討委員会でも東京のグリーンファイナンス発展に向けた「Tokyo Green Finance Initiative (TGFI)」を提言したほか、座長を務める「デジタル通貨フォーラム」でも、環境価値がデジタル通貨での取引に反映される仕組みなどが検討されています。ESG、SDGsは数十年先を展望したテーマです。**金融機関がテクノロジーの進化とともにイノベーションを起こしながら発展的に変革していくことを期待しています。**



山岡 浩巳

フューチャー株式会社 取締役 兼 フューチャー経済・金融研究所 所長

1986年東京大学法学部卒。1990年カリフォルニア大学バークレー校ロースクール修了。米国ニューヨーク州弁護士。1986年日本銀行入行。国際通貨基金(IMF)日本理事代理、バーゼル銀行監督委員会委員、日本銀行金融市場局長、決済機構局長などを歴任。2019年より現職。

フューチャーグループの中核を担うフューチャーアーキテクトは、地域金融機関の IT 戦略パートナーとして全国で 30 行を超えるお客様との実績があります。2021 年 1 月からは、新しいコンセプトの基幹業務システム『次世代バンキングシステム』の提供に向けた取組みを開始しており、今後も地域金融機関のお客様の持続的な成長へ向け、ビジネスの変革や経営戦略の実現を支援してまいります。

■お問合せ先 フューチャー株式会社 広報担当:石井、小船 E-mail : f_pressroom@future.co.jp